

平成31年度
取組予定

低コストで効率的な施業の推進に向けて

～列状間伐施業の推進～

十勝西部森林管理署東大雪支署

【現状・課題・目的】

○列状間伐は優良木の生産に支障が出るとの懸念

○風倒被害への懸念。

など、森林所有者の懸念の払拭と、列状間伐の効率性等の理解と普及が課題となっている。

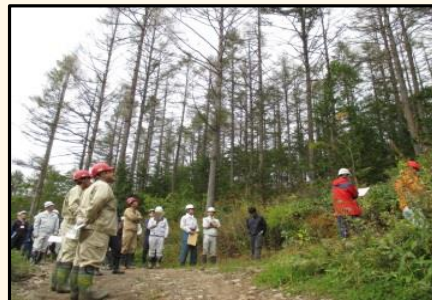
列状間伐等の普及により、低コストで効率的な施業の定着を目的に取り組んでいく。

【令和元年度の取組予定】

列状間伐の普及

＜課題＞ 森林所有者がもっている列状間伐に対する懸念の払拭。

各種会議等の機会を捉え、列状間伐のメリット、効率的な作業システム等について、民有林関係者への情報発信します。



工程管理システムの活用

＜課題＞ メリットやコスト等の見える化。

間伐コストを算出するためのデータ等が不足していることから、今年度の当支署の製品生産請負事業において、工程管理プログラムを用いたデータ収集と分析を行い各種間伐コストの見える化に取り組めます。



【これまでの取り組みや成果】

「列状間伐施業の推進」に取り組み、道有林の列状間伐箇所での意見交換、実行管理推進チーム会議で情報共有、総合振興局主催の現地検討会で情報提供するなどした結果、道有林で2回目列状間伐と一部の自治体で列状間伐が実施され始めた

H30年度事業地

伐採方法	面積(ha)	樹種	功程(m3)
列状	22.55	トド・エゾ・アカエゾマツ	10.07
定性	53.92	カラマツ	8.13

【今年度の取り組みで目指すところ】

- ・列状間伐の普及に向けた技術情報の発信を通じ地域の理解を深める。
- ・間伐コスト縮減に向けた各種間伐コストの情報発信や、工程管理システムの活用等を通じ地域の理解を深める。

【今後の目標】

民有林への列状間伐等の普及により、低コストで効率的な施業の定着を図る。

令和元年度 取組結果

「低コストで効率的な施業の推進に向けて」

～列状間伐施業の推進～

十勝西部森林管理署東大雪支署

目 標

民有林への列状間伐等の普及により、低コストで効率的な施業の定着を図る。

令和元年度の取組

取組の内容

取組の成果

列状間伐の普及

森林所有者がもっている列状間伐に対する懸念の払拭

各種会議等の機会を捉え、列状間伐のメリット、効率的な作業システム等について、民有林関係者への情報発信する。



十勝地域林政連絡会議

地域林政連絡会議等で情報を共有し、総合振興局主催の現地検討会に参画するとともに、民有林関係者に列状間伐のメリット、実施した作業システム等の技術情報を説明し、列状間伐への理解と普及を図った。

工程管理システムの活用

メリットやコスト等の見える化

間伐コストを算出するためのデータ等が不足していることから、今年度の当支署の製品生産請負事業において、工程管理プログラムを用いたデータ収集と分析を行い各種間伐コストの見える化に取り組む。

事業地の概要等

伐採方法	面積(ha)	樹種	林齢	間伐率(%)	林地傾斜(度)	平均集材距離(m)	工期(m3/1人1日)
列状	50.36	トド・エゾ・アカエゾマツ	47	25%	17	1,471	8.54
定性	90.35	カラマツ	47～49	25%	20	1,101	7.68

※「工程管理プログラム」とは、パソコンを活用して作業工期と生産コスト、機械ごとの作業工期を把握し、効率的な作業方法を支援するソフトウェア。

請負生産事業を実施している事業体へ、工程管理プログラムの概要、データ収集の目的を説明し理解を得るとともに、請負事業における工程管理やコストを意識した事業を実施してもらうことができた。

今後も傾斜、面積など林地条件ごとのデータを整理すると共に、工程管理のポイントや列状間伐の作業工程などの見える化を行い、列状間伐施業の推進を行う。

目標に対する達成度

民有林関係者に列状間伐のメリット、実施した作業システム等の技術情報を説明したことによりコスト面については理解された。しかし、優良木の生産への支障や風倒被害への懸念の払拭が課題である。

次年度の取組予定

列状間伐のコスト面でのメリット、優良木の生産への支障や風倒被害への懸念の払拭に向け、列状間伐と定性間伐を比較検証を行うために、より林地条件が類似する箇所（樹種・林齢・林況等）を選定する。